

令和4年3月17日（木曜日）

予算決算委員会建設分科会

議会会議室

出席議員

汐田浩二、蔭山敏明、宮下和也、重田一政、  
萩原唯典、梅木百樹、松岡廣幸、今里朱美

【建設委員会（下水道局）の審査】

再開

10時17分

下水道局

10時17分

送付議案説明

- ・議案第 1 号 令和4年度姫路市一般会計予算
- ・議案第 11 号 令和4年度姫路市下水道事業会計予算
- ・議案第 13 号 令和3年度姫路市一般会計補正予算（第12回）
- ・議案第 16 号 令和3年度姫路市下水道事業会計補正予算（第1回）

質疑

11時08分

（質問）

下水道事業会計には、毎年度、一般会計からおよそ100億円もの繰出金を繰り入れている。赤字が問題となっている国民健康保険事業特別会計繰出金ですら、約半分の50億円程度である。特に、皮革排水に係る処理経費については、莫大な金額が投入されている。

今でさえ、皮革排水の前処理に巨額の費用がかかっていると市民に見えにくい状態であるのに、上下水道組織が統合されると、さらに分からなくなってしまうと思う。

下水道事業の経営健全化を図るためにも、皮革排水処理に係る収支を改善する必要があると思われるが、どのように取り組もうと考えているのか。

（答弁）

現在、兵庫県やたつの市、太子町とともに、皮革関係団体と事業者負担について協議を進めているところである。令和4年度には、合意形成を図りたいと考えている。

また、長期的な取組になるが、前処理場施設の維持管理費などの経費を削減するため、前処理場の統合についても検討しているところである。令和4年度に

は、試験的な取組を進めたいと考えている。

さらに、県に対しては、皮革排水特別対策費補助金の拡充を、そして、国に対しては、兵庫県等とともに財政支援制度の創設などを要望している。

姫路市単独ではなく、兵庫県と連携しながら、処理コストの削減を図っていきたい。

（要望）

皮革産業は姫路の重要な地場産業であること、また、皮革排水処理は、河川や瀬戸内海の環境保全に大きく寄与していることから、国や県へさらなる支援を求めべきだと思う。ぜひ頑張ってもらいたい。

（質問）

昨日、建設局の審査において、議案第39号の都市計画道路広畑幹線ほか1路線橋梁下部（その1）工事請負契約に係る議決更正の理由として、工事発注前のボーリング調査では分からなかった直径20センチメートル以上の玉石が多く確認され、工法を変更し、また、工期を延長するためとの説明があった。

広畑本町貯留管他下水道工事に関して、夢前川児童公園に工事看板が掲示されているのを見たが、橋梁工事の現場は、同公園から北東200～250メートルほどの距離にあり、また、夢前川児童公園は昔、川だった場所にあることから、同公園の下水道工事でも直径20センチメートル以上の玉石や大量の水が出てくると思われる。どのように広畑本町貯留管他下水道工事を進めようと考えているのか。

（答弁）

事前のボーリング調査等から、直径20センチメートルほどの玉石は出ると予測している。

広畑本町貯留管他下水道工事は、推進工法を取っており、推進管の先端に取りつけた掘削機の刃先で玉石を砕き、小さくして吸い込みながら推し進めていくことから、20～30センチメートル程度の玉石であれば対応できる。

（質問）

令和4年度に、おおむね1,000年に1回程度の降雨を対象にした姫路市内水ハザードマップを作成することであるが、完成後に各戸配布するのか。

（答弁）

公表の方法は未定である。

しかし、市民には、ハザードマップを手元に置いて、

国土交通省が普及・啓発を進める住民一人一人の防災行動計画、マイ・タイムラインを検討してもらいたいことから、考えるきっかけをつくるためにも各戸配布が望ましいと考えている。

(要望)

ハザードマップは、洪水や土砂災害、津波など既にいろいろなものがあり、さらに新たなものを作ると、どのように利用すればよいのか分かりにくくなると思われる。市民に向けて活用方法等の情報をしっかりと発信してもらいたい。

(質問)

栄養塩類の不足等によって養殖ノリが色落ちするなど深刻な漁業被害が発生している。

令和4年度の経営健全化に向けた取組の推進として、下水放流水に含まれる栄養塩類の能動的管理の取組を挙げているが、兵庫県と連携して既に対策に取り組んでいると思う。これまでの取組状況と今後の見通しについて説明してもらいたい。

(答弁)

ノリの色落ちや発育不良等、栄養塩不足が原因とされる問題は全国各地で生じている。

兵庫県下水道処理施設では、処理水中の窒素濃度を規制の範囲内で増加させる栄養塩管理運転の拡大を進めており、特に栄養塩が不足する冬場に排出を増やしている。

本市の下水道処理施設における栄養塩管理運転は、平成27年度から家島浄化センターで試験的に開始し、その後、大的・中部・東部などの処理場においても始め、現在、冬場の栄養塩の排出を通常の1.5倍にすることを目標に、全ての処理場で本格的に取り組んでいる。各下水処理場の特性に合わせた効果的で安定的な方法で進めていきたいと考えている。

また、令和3年6月には、瀬戸内海環境保全特別措置法が改正され、地方自治体が栄養塩類の管理に関する計画を策定できる制度が創設された。

これを受けて、兵庫県では、栄養塩類管理計画を策定中である。同計画では、下水道処理施設の管理運転に関することや一般企業からの栄養塩の排出等について規定されると聞いている。

(要望)

下水道処理施設から栄養塩類を排出したからとい

って、すぐにノリの色落ちが改善されることはないと思う。また、冬場の濃度の引上げにおいて1.5倍が適切なのかも検証が必要である。

姫路市や兵庫県だけでなく、瀬戸内海全体の問題であり、水環境保全との両立は難しいと思うが、今後もしっかりと取り組み、進捗状況を報告してもらいたい。

**退職者挨拶**

**11時27分**

**下水道局終了**

**11時31分**

【建設委員会（水道局）の審査】

**水道局**

**12時55分**

**送付議案説明**

・議案第9号 令和4年度姫路市水道事業会計予算

**質疑**

**13時12分**

(質問)

一般的に水道管を更新する際には、同じ口径のものに替えると思うが、飾磨区恵美酒地内外配水管布設替工事において水道管の口径を小さくするのは、どのような理由からなのか。

(答弁)

既存の配水管が必要水量以上に大きいため、流速が遅くなり水が滞留してしまう。ある程度の流速を保つために管径を小さくするものである。また、管径が小さいほうが工事費が安くなるということもある。

(質問)

飾磨区加茂地内外配水管布設替工事では、口径が150ミリメートルとなっている。同工事が行われる周辺は、新たな住宅の建つ余地が大きいと思うが、将来その辺りが住宅街になっても口径150ミリメートルで問題ないのか。

(答弁)

周辺の給水管の口径によって、配水管の口径を決めている。基準には適合している。

(質問)

国庫支出金について、令和3年度は水道施設等耐震化事業に対する補助金として約7,350万円が計上されていたが、令和4年度は水道施設整備事業等に対する補助金として約720万円が計上されるのみである。

もしも甲山浄水場更新事業の入札がうまくいってれば、令和4年度の国庫補助は、もっと大きな金額

になっていたのか。

(答弁)

令和4年度の国庫補助金は、姫路市田井浄水場の浸水対策、保城浄水場の配水コントロールシステムの更新及び甲山浄水場更新の設計にかかる費用である。

仮に、甲山浄水場更新事業がDBM方式で進められていたとしても、まずは詳細設計から始めることになる。多額の事業費を要するのは建設工事からであり、国庫支出金の金額は今と変わらない。

(質問)

国庫補助金に関しては、既に、ある程度国と交渉しているのか。

(答弁)

そのとおりである。

(質問)

令和3年度は、投資有価証券購入費は上がっていなかったが、令和4年度は10億円が計上されているのは、どのような理由によるのか。

(答弁)

現在、保有している投資有価証券が令和4年度に満期を迎えるため、預け替えるものである。

基本的に、地方公共団体が発行したものなど安全性が高いものを購入している。

(質問)

一般会計等でも有価証券を購入して配当金を得ているが、水道事業会計も同じようにしているということなのか。

(答弁)

甲山浄水場更新事業の工事費に充てるため、建設改良費に積み立てているところである。

普通預金は超低金利が続いているため、より有利な資産運用をしたいと考え、工事期間を考慮して3年債や5年債などを購入している。

(質問)

県水受水費の単価については、数年に一度変更されているが、次の見直しはいつ行われる予定であるのか。

(答弁)

単価の見直しは、4年ごとに行っており、今回は、令和4年度から5年度にかけて兵庫県と協議を行い、令和6年度から新たな料金体系となる予定である。

(要望)

しっかり県と交渉を行い、受水費が引上げにならないよう努めてもらいたい。

**退職者挨拶**

**13時22分**

**水道局終了**

**13時24分**

**【建設委員会の意見取りまとめ】**

**意見取りまとめ**

**13時28分**

・分科会長報告について

正副分科会長に一任することに決定。

**閉会**

**13時29分**